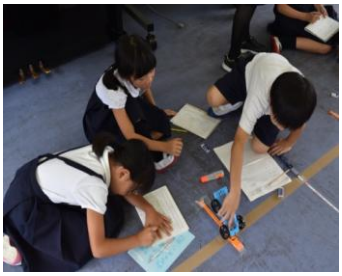
おわりに

ソニー子ども科学教育プログラムへの応募も４回目を迎えました。昨年の計画を基に、「授業づくりの３つの視点」と「地域との連携」の点から取り組んできました。

生活科「日の岡山探検」

１・２年生の生活科単元「日の岡山探検」では、今年は春に探検を行い去年の秋の時と比べてみました。「去年は、ここにデングノハナ（カラスウリ・センダングサなど）があったのに、なくなっている。」「赤い葉っぱがなくなって緑の葉っぱになっている。」「同じ木でも、緑が濃い葉っぱと薄い葉っぱがある。薄いのは、子どもの葉っぱかな。」などの気付きが、沢山あげられました。

２年間を通して秋と春を比較し、季節の移り変わりとともに、「秋に実り、冬に枯れて、春にまた生まれる」ことを実感しました。



３年理科
「ゴムや風でものをうごかそう」

４年理科
「わたしたちの体と運動」

５年理科
「メダカのたんじょう」

６年理科
「水よう液の性質」

授業づくりの３つの視点において、視点①では、３年理科で地域の「石の風車」を導入に活用したり、５年理科で山鹿の「野生のメダカ」を採集し飼育活動を行ったりする中で、自分たちの問題を設定することができました。視点②では、３年理科「ゴムや風でものをうごかそう」において、前時の結果を基に、決められた距離まで進めるためのゴムの伸ばし方を思考していく姿を、４年理科「私たちの体と運動」（動物の体のつくりや仕組み）では、ウサギとハトの骨格標本と筋肉の付き方の絵を準備し、比べながら観察し運動と結び付けた考察をする姿を多く見ることができました。さらに、５年理科「メダカのたんじょう」では、児童の疑問であった産卵行動を観察・実験することで、生命誕生の感動とともに生命の神秘さを実感することができました。視点③では、６年理科「水よう液の性質」において、山鹿の温泉の性質について調べることで山鹿の温泉がアルカリ性であることに気付き、その効能まで学ぶことができ故郷山鹿の良さを実感できたことと思います。

前述したように、今回は、「地域との連携」の観点から「地域教材」にも目を向け、できる限り授業の中で活かせるように取り組んできました。５年生は、「山鹿のメダカを殖やそうプロジェクト」を通して、命を育て、採集した場所に子メダカを放流しました。この活動を通して、自然を守ることの大切さやメダカの棲める環境のことを深く学ぶことができたことと思います。

論文には記述しておりませんが、本校では、２０１６年９月から２０１７年８月までに校内研修等で研究の視点に沿って 15 回の理科の研究授業を行いました。研究授業に限らず、日々授業実践を積み重ね、「科学大好き稲田っ子」の育成に取り組んでいるところです。

夏休みの終わりに、６年生の保護者の方が、「川エビを採って来ました。」と言われ、よくよく見るとキンギョモと一緒に野生のメダカもいました。「校区にも野生のメダカがいたのですね～」との言葉に保護者もびっくり！ また、新たな発見がありました。

保護者をはじめ地域の方々も稲田小の理科をバックアップしてくださいます。だから、「科学大好き、自然大好き」な稲田っ子が育っているのだと感謝しています。

学　校　長	川　野　富士夫
ＰＴＡ会長	春　田　圭　亮
研究　代表	宮　﨑　清　美
執　筆　者	川　野　富士夫
	宮　﨑　清　美
	桐　田　照　美
	牛　嶋　克　宏